

創立20周年記念 第20回狭山市民芸術祭を終えて

2月18日(火)から23日(日)にかけて、20周年記念の狭山市民芸術祭を無事に開催出来たことを嬉しく思います。今年のテーマは「つなぐ」、各団体の文化活動の次世代への継承、文団連が続けてきた狭山に根ざした文化の発信の継続などが課題となっている中での芸術祭でした。6日間でのべ3,900人の来場者があり、加盟団体による作品展示や茶席、舞台公演をお楽しみいただき



迎花



美術家協会の展示

「三番三＝鈴の段」が舞われ、文団連会長小川の挨拶、小谷野市長の祝辞に続いて永年賛助会員21団体への感謝状贈呈を行いました。「雪女幻想」は、東京で活躍されている能楽師や

きました。

文団連の20年の歩みを写真やポスターなどで紹介した特別展示や恒例となった大ホールロビーでの模擬店、「狭山にゆかりのある文化人」紹介などの企画展示も好評で、舞台公演の合間に多くの観客の皆さまにもご覧いただきました。最終日のホールでは20周年記念式典と創作舞踊劇「雪女幻想」を上演しました。式典では、始めに20周年を祝って大藏流狂言方 大藏教義氏によって



「雪女幻想」からエンディングシーン

日本舞踊家の方々と、文団連会員や狭山および近郊の市民・子ども達が一体となって創り上げた舞踊で、プロの舞台スタッフにも支えられ、昨年7月からの稽古の成果が十二分に発揮された舞台となり、成功裡に幕を閉じることが出来ました。出演者およびスタッフの皆さま、大変お疲れ様でした、そして、ウイルス騒ぎの中ご来場下さった大勢の皆さまに感謝申し上げます。

狭山市文化団体連合会では、20年の歩みをゆるめることなく、狭山市の文化の向上、市民によるの文化の発信を目指して活動していく所存です。

今後ともご支援のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

第20回狭山市民芸術祭
実行委員長 小川忠史



茶席



文団連20年の歩み展